

ならぬ、種々な點から、品性が卑劣になつて、社會へ出てから後も、いつ迄もついて廻る、碌なものにはなれない。苦學はよい、苦學するならば、宜しく獨立獨行、他人の御世話にならず、他人に迷惑をかけず、自分で職業を見出して、充分やり遂げる決心で出京するがよい、一身を賭してかゝれば、ドンナ山奥の人にも、都會にはそれ相應の職業がある、それ文けの勇氣があり覺悟があつて、まづ衣食丈け自分でやつてゆける人なれば、修業の手段方法については、私は出來るだけ助けも爲やう、力にもならう、最初から衣食の世話迄は、私などには到底出來ない。

東京府主催美術及美術工藝展覽會を上野に見た、一番振つてゐるのが日本畫、次は寫眞で、工藝品も見そぼらしいが、西洋畫と彫刻は、ほんの申譯だけに薄暗い部屋に列んでゐる。水彩畫の出品は十餘點もあらう、格別評するほどの物もない。文部省の展覽會へ玉葱を出品し、白馬會に卵子を出品して、忠實なる靜物畫家として知られた柴田節藏氏は、こゝにも二點の靜物畫が出てゐる、進歩か退歩か、私には前に見た時ほどに感興が起らなかつた。竹内久子嬢の鴨はよい、樂器は一段劣るやうだ。洋畫は何故に振はなかつたか、それは時期の悪いのと、府の當局の失策とが原因であらう。五月には白馬會が開かれる、殆ど時を同ふして、同一の建物内に太平洋畫會の展覽會がある、此二つの會は、現に吾國に於ける兩大關で、技術の上では飽迄競

争せればならぬ、會員は銘々自分の會へ立派なものを出す義務がある、それで、會の有力者は相警めて一枚も出品しなかつた併し、若しも府の當局が、早くより準備し、作家とも相談して此計畫をやつたのなら、少しは繪も集まつたらうが、陳列する處さへ出來れば、繪は何時でも集まるものと考へてゐたのが大間違で、佳い繪といふものは、右から左と左様に手易く出来るものではない。

『まア島渡近くへよつて、能く見給へ！ 彼の畫師はやツぱり巧い處があるね、此の肖像畫の能く似てゐることといふものは、宛で口でも利きそうぢやアないか。』

『桑原々々！ 口を利かれては耐らない。』

『何故？』

『何故かつて、此のお爺さんにはまだ借金が残つて居たもの。』

甲『僕の手腕も凄じいものさ、この間戯れに往來の敷石に、五十錢銀貨を書いて置たら、通りかゝつた乞食がそれを取らうとして、生爪を剥がして了つたなどは我ながら驚いた技倆さ。』

乙『そんな事で驚くやうでは君もまだ手腕が生たよ、僕の如きは石垣の隅に豚の肉を畫いて置たら、餓た犬が其間違を見つけ出す迄に、石の半分を喰つて了つた。』(文藝俱樂部滑稽揃)